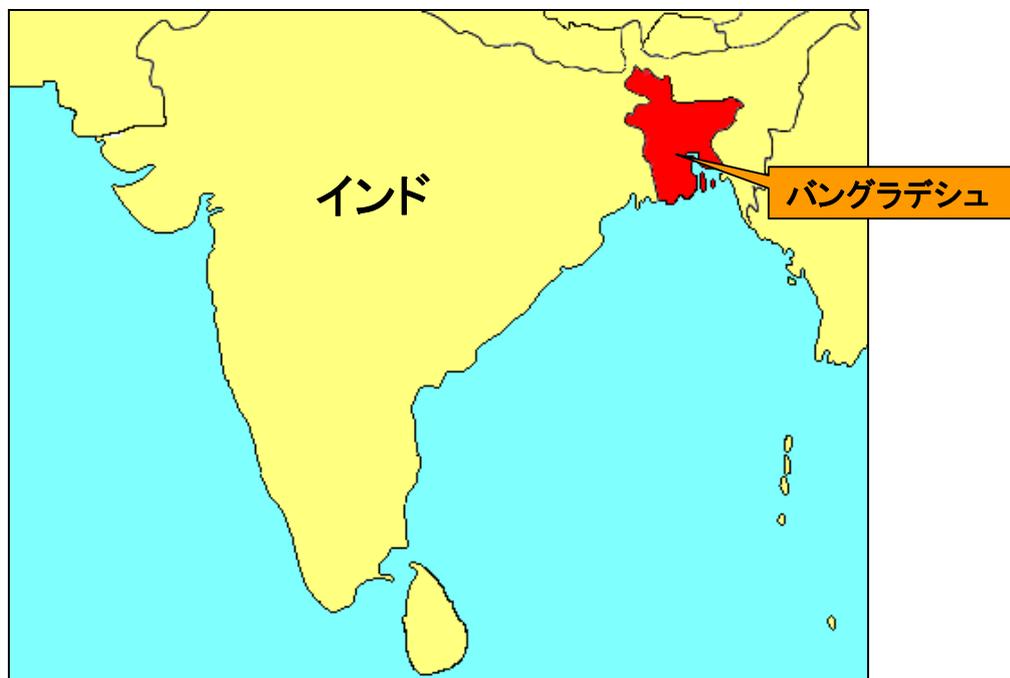


バングラデシュでニパウイルス感染症が流行

2011年2月14日 ProMED 情報(The Daily Star)



2月13日、同国 Kushtia 総合病院で、新たにニパウイルス感染症患者1名が死亡し、死亡患者数は31名に増加しました。

患者は、Kushtia 地区の Mirpur upazila の Shimulia 村出身の30歳男性で、12日午後の高熱で入院しました。家族によれば2月11日ナツメヤシジュースを飲んだ後に発熱したとのこと。これは、Kushtia 地区でのニパウイルス脳炎の初症例です。

1月31日から、死亡患者が31名発生し、それらは、ランプル Rangpur、クリグラム Kurigram、ラルモンihat、ニルパマリ Nilphamari、ガイバンダ、ディナジプル Dinajpur、および Kushtia の7つの地区で発生しました。

[ProMED 調整者]ニパウイルスを保有するフルーツバット(オオコウモリ)が、木の上に置いてある収集のための壺に入っているナツメヤシジュースを飲み、このためナツメヤシジュースがニパウイルスに汚染され、これを飲んだヒトが感染するといったことがバングラデシュではおこっています。

ヒトでのニパウイルス感染症は重症で死亡率は40～75%です。この報告は、死亡患者が7つの地区から報告されていることから、本年はさらにニパウイルス感染者数が増加するとともに広い地域で発生していることを示しています。